

# 令和元（2019）年度栃木県教育研究発表大会

第20回記念となる令和元（2019）年度栃木県教育研究発表大会を、令和2（2020）年1月24日（金）・25日（土）の両日、栃木県総合教育センターを会場に開催しました。二日間とも天候に恵まれ、延べ947人の参加をいただき、盛会のうちに終了しました。

24日の午前には、学力向上、児童・生徒指導、人権教育、道徳教育の各部会が開催されました。児童・生徒指導部会では、「一人一人の子どもを『認める』」をテーマに、総合教育センター作成の指導資料の説明と、小学校と高等学校での取組の実践発表がありました。研究協議では、子どもを認めるために大切だと思うことや自身の取組について活発に意見交換がされました。



【児童・生徒指導部会での実践発表の様子】

24日の午後には、学校経営、生涯学習、学校安全、校内研修、主権者教育の各部会が開催されました。生涯学習部会では、「高校生と協働した『地域づくり』」というテーマで行われました。調査研究の報告では、地域活動参加促進に向けた提言、県立黒磯南高等学校からは、地域で活躍する人材を育てる授業実践、真岡市社会福祉協議会からは、市内四つの県立高等学校と連携した福祉教育、それぞれの発表があり、参加者の熱心な意見交換が行われました。



【生涯学習部会での実践発表の様子】

25日の午前には、白鷗大学特任教授であり元TBSアナウンサーの下村健一氏を講師に招き、「実演！使えるメディアリテラシー授業～情報に踊らされない為の、4つの“おまじない”～」という演題で講演がありました。想像力のスイッチを入れながら、情報をしっかり受け取るための‘4つのギモン’、情報をしっかり届けるための‘4つのジモン’をもつことの大切さについて、お話をいただきました。中学2年生を対象にした授業を再現する講演内容に引き込まれ、充実した学びの時間となりました。



【記念講演の様子】

25日の午後には、情報教育、外国語教育（小・中・高）、幼小連携、特別支援教育、国語（中・高）、社会、地歴・公民（中・高）、数学（中・高）、理科（中・高）の各部会が開催されました。外国語教育部会では、「小学校を起点とした外国語教育の充実」というテーマに基づいた小中高連携事例の発表及びパネルディスカッションを通して、小中高連携の取組や他校種の外国語教育の現状について知ることの重要性を理解することができました。



【外国語教育部会でのパネルディスカッションの様子】

※その他、24日、25日の昼休みに、学校におけるOJT部会が開催されました。ポスターセッション方式で、学校におけるOJT成功のポイントについて実践事例も含めて紹介されました。

二日間にわたり教員や教育関係者による発表及び指導・助言を基に、様々な校種や立場の参加者が、活発に意見を交換する姿がそれぞれの部会で見られました。

アンケートには、「大変有意義な研究発表だった。現場に持ち帰り日々の教育実践に生かしたい。」「話を聞くだけでなく、参加者自身も実際に体験しながら考えられ、とても有意義な時間を過ごすことができました。」等の感想が寄せられました。